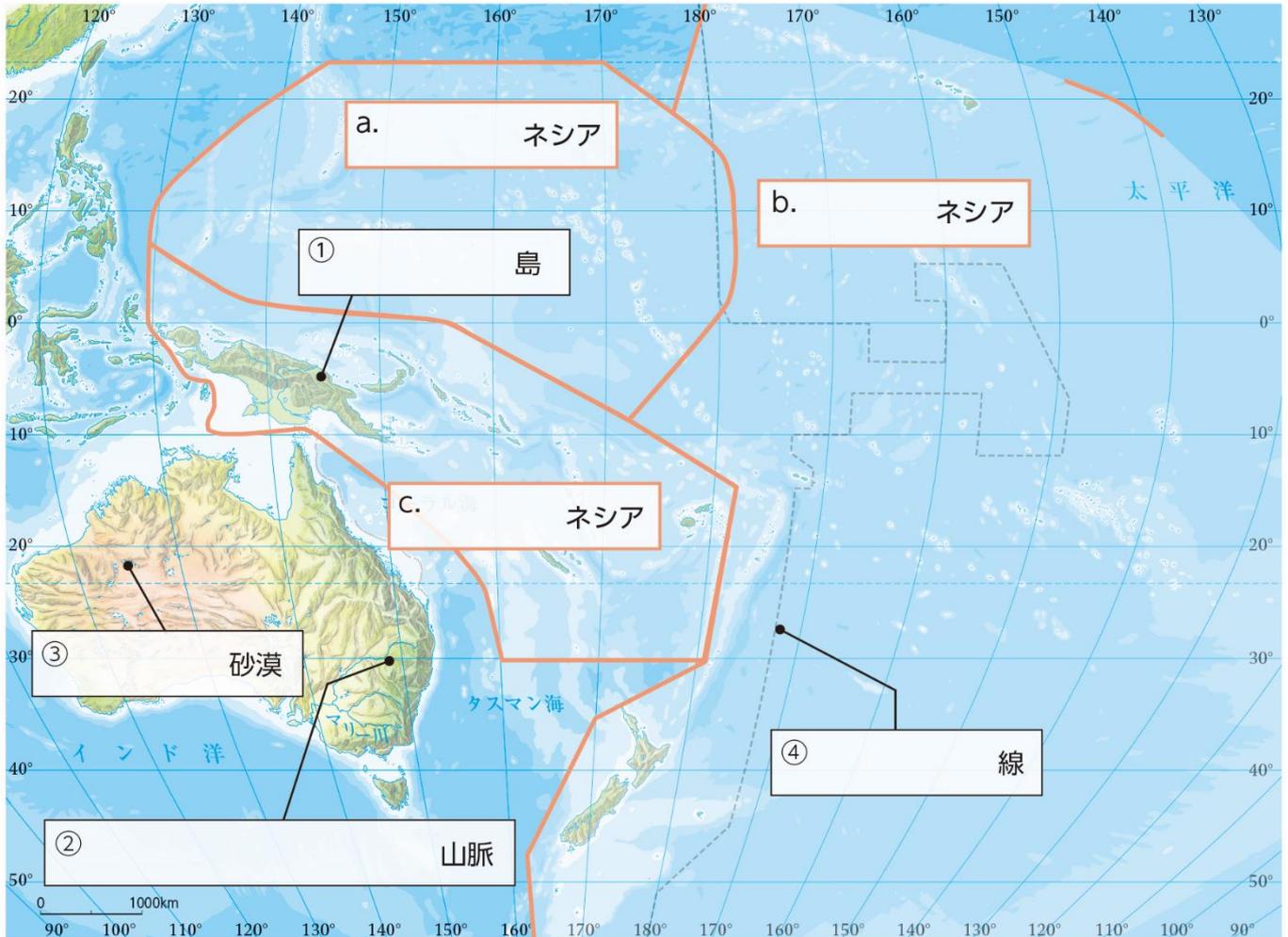


学習のまとめと表現

オセアニア州の学習を振り返って整理しよう

教科書対応ページ p.117(参照するページ p.120~125)

②地図を使って確かめよう。



①地図中の にあてはまる地名を書き入れよう。

②地図中の の線で示された地域名 a~c を次の空欄 ちいき くうらん に書き入れよう。

①	ニューギニア島	②	グレートディバイディング山脈	③	グレートサンディー砂漠	④	日付変更線
a	ミクロネシア	b	ポリネシア	c	メラネシア		

③地図の中に東経 135 度線を書き入れよう。…解答例は 3 ページめを参照下さい。

メモ

グラフの解答例は、問題シートとは気温・降水量の目盛りが異なるので注意しよう。

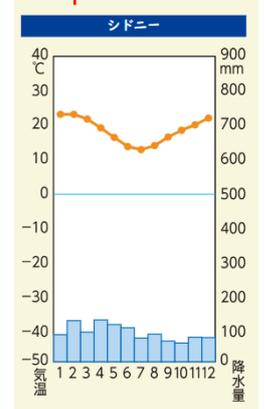
③表現しよう。

- ①【オセアニアの気候】 右の統計資料からシドニーの気温と降水量のグラフをつくり、東京の気温と降水量のグラフ(←p. 31)と比較してわかることを書き出そう。

(「理科年表」)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
気温(℃)	22.9	22.9	21.5	18.9	16.1	13.4	12.5	13.7	16.2	18.2	19.8	21.8
降水量(mm)	79.7	121.1	87.4	123.1	109.7	100.1	70.1	81.2	60.9	55.4	72.4	71.4

(解答例) 気温が年間で最も気温が高い月は、東京が8月、シドニーは1・2月、低い月は東京が1月、シドニーが7月である。降水量が年間で最も降水量が多い月は、東京が9月、シドニーは4月、少ない月は東京が12月、シドニーが10月である。両都市を比較すると、気温・降水量ともにシドニーのほうが変化は小さい。



- ②【オーストラリアと他地域との結びつき】 オーストラリアと他地域との結びつきの変化について、1970年代ごろまでと、それ以降の二つの時期に分けてまとめよう。その際、「貿易」と「人々の移動」の項目ごとに整理しよう。 ※(解答例) 教科書 p. 124 本文の記述などを振り返りながら。

貿易⇒ 1970年代ごろまでは、イギリスなどのヨーロッパの国々との貿易が盛んだったが、1970年代以降になると、アメリカ合衆国やアジアの国々が大きな割合を占めるようになった。

人々の移動⇒ 1970年代ごろまでは、白人以外の移民を制限し、ヨーロッパからの移民を多く受け入れてきたが、1970年代以降になると、経済発展を図るために英語以外を話すヨーロッパやアジアからの移民を積極的に受け入れるようになった。

掲載されている解答は、一つの例です。自分の解答が正しいか気になった場合は、先生に質問してみましょう。



まっぴんぐま

④意見を交換しよう。

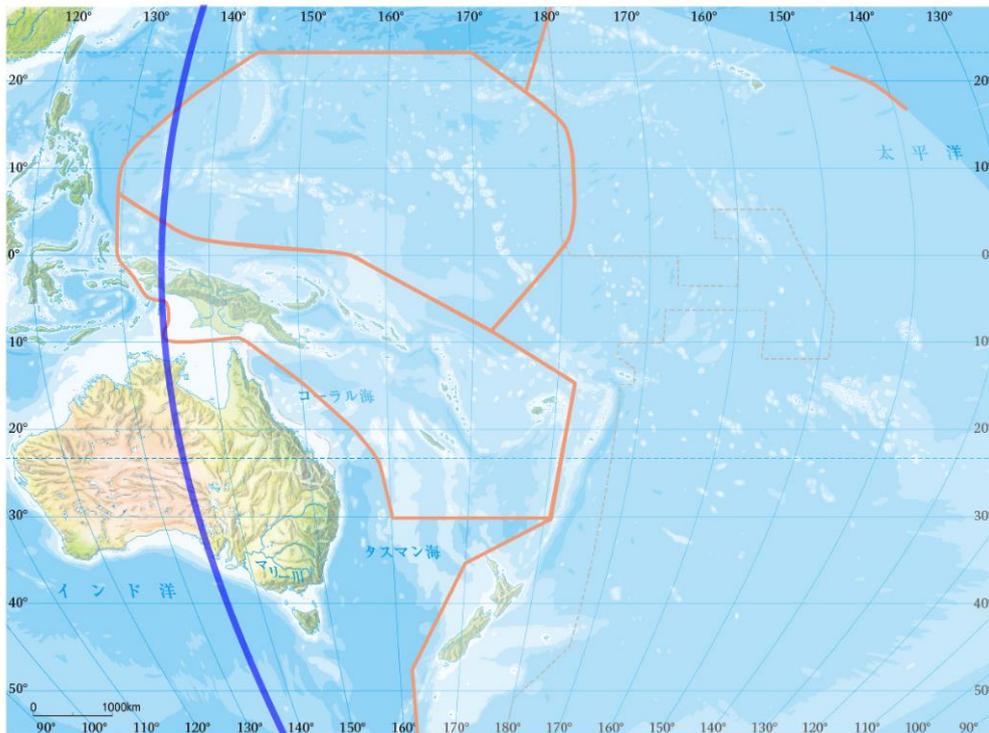
*オーストラリアを例に、移民政策が変化してきた理由についてまとめよう。また、それをもとに考えて、他地域との関係を深めていくためにはどのような考え方や工夫が必要か、話し合ってみよう。

(まとめの例) オーストラリアでは、第二次世界大戦前まで白人以外の移民をしめ出す白豪主義政策をとってきたが、その後、経済の発展を図るため、英語以外を話すヨーロッパやアジアからの移民を受け入れるようになった。1970年代に白豪主義政策が廃止されると、さまざまな文化が共存できる社会の実現を目指す多文化主義を国の方針と定め、移民の文化の多様性と豊かさを尊重する国づくりを進めるようになった。…

p.127 の「②地図を使って確かめよう」③の解答例

③地図の中に東経135度線を書き入れよう。

青線：東経135度線



(着色する色は問いません。適宜お選び下さい)